

会 議 録

会 議 の 名 称	令和 3 年 度 第 2 回 行 田 市 女 性 活 躍 推 進 ネットワーク 会 議	
開 催 日 時	令和 4 年 2 月 4 日（金） 開会：午前 1 0 時 0 0 分・閉会：午前 1 1 時 3 5 分	
開 催 場 所	行 田 市 男 女 共 同 参 画 推 進 センター 学 習 室	
出席者（委員） 氏 名	山崎孝子委員（座長）、岡田恵美委員、吉澤篤人委員（代理人出席）、竹井里美委員、永島志津子委員、幅崎麻紀子委員、横山訓子委員、大中美奈子委員、黒澤麻美委員、田島孝代委員、春田昇委員（名簿順、敬称略）	
欠席者（委員） 氏 名	吉岡浩司委員、根岸桃子委員、大塚智子委員、森川貴史委員、西田信子委員、佐藤智恵委員、坂詰恭子委員、茂木美智代委員、鹿山由美子委員、伊藤賀章委員（名簿順、敬称略）	
事 務 局	堀口修司（所長）、新島紀子（主任）	
会 議 内 容	1 講演 石井加代子様 2（1）令和 3 年度女性活躍推進事業について （2）令和 4 年度女性活躍推進事業計画（案）について （3）その他	
会 議 資 料	・ 会議次第 ・ 資料 1 令和 3 年度事業実施報告書について ・ 令和 4 年度女性活躍推進事業計画（案）について ・ 男女共同参画推進事業チェックリスト ・ 事業アンケート結果 ・ 埼玉読売記事（ティピテント講座） ・ VIVA ぎょうだ 4 4 号	
そ の 他 必 要 事 項	傍聴者 1 名	
会 確 議 録 の 定	確 定 年 月 日	主 宰 者 記 名 押 印
	令和 4 年 2 月 日	㊟

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	・ 開会。 ・ 配布資料の確認。 ・ 本日の会議は、個人情報を取り扱う予定がないことから、原則公開とさせていただきます。また、会議録については、委員名を明記の上、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて公開させていただきます。 本日の傍聴希望者は 1 名。
事務局	石井先生の経歴についての説明
石井加代子様 （講師）	資料に基づき説明。
座長	・ ただいま石井先生より貴重な体験談やいろいろな事例などを教えていただき大変感謝する。先生にご質問があるか。
岡田委員	・ お話ありがとうございます。先陣を切って変えられて来たことが大変素晴らしいと思う。当時は並々ならぬご苦労があったかと思う。私は農福連携について興味があり、自分でも農業に携わっている。就労支援をしている事業所さんから、「今障害者の方が人材不足で取り合いになっている」という話を聞いた。いただいた資料の中で、「対象を広げ困難を抱える人の就労・社会参画の確保」ということがあったが犯罪とか非行歴がある方も対象になる補助金制度はあるのか。
講師	・ 障害福祉サービス事業所の加算に該当するかどうかの質問であるが、障害福祉サービス事業所はあくまでも障害福祉サービスを営んでいるので障害手帳が必要です。手帳がないと、受け入れが難しいとの話は、多くの事業者さんから伺っている。だから刑務所や少年院を出る前に、手帳を持っていない方が障害に応じた手帳を取

座長	得できるように、各施設に社会福祉士が配置されており、その辺の対応についても進んでいるところだ。 ・岡田さんの意見と同じように、更生して行くのが難しいということで、今の農福の取組というのはすごくよい。農業というのは自然相手だから、心が荒まず、取り組めるというのが素晴らしい。これからも農福を進めて欲しい。その他ご意見あるか。 それでは講演ありがとうございました。 石井氏退出
座長	・それでは引き続き議題に移りたい。まず議事（１）報告事項 令和３年度女性活躍推進事業について事務局より報告をお願いする。
事務局	（１）報告事項 令和３年度女性活躍推進事業について説明
座長	・ただいま事務局で説明があったが、ご意見、ご質問はあるか。
岡田委員	・まとめて質問させていただく。まず、アロマ講座だが、アンケートの結果で 78%の方が大変参考になったという良い回答をしているが、1部と2部どちらの感想か事務局のほうで把握しているか。見た限りだと、最後のフリー回答のところが主にアロマに関してなので、アロマについての感想かと思うが、把握していたら教えていただきたい。
事務局	・1部と2部で分けて把握はしていない。
岡田委員	・毎回同じことを言うが、アロマ講座を受けていただくことが主眼ではなく、VIVAとしてはワークライフバランスをみんなにしてもらいたいというところが主眼なので、次回以降アンケートを分け

	て、どちらについての回答なのかは分るようにした方がよいかと思う。 続いて SDGs のセミナーだが、受講者が 8 名で残念だったということだが、積極的に時間を割いてまで受けようという人が少ないのは、希望者が少ないということが理由の 1 つになると思う。でも、大事なことで、他人任せではなく、一人一人が取り組んでいかなければいけないことだと思っている。ぜひ次年度以降も積極的に取り組んでいただけたらと思う。それなので、例えばパソコン講習など人気のある講座と抱き合わせで付随的に SDGs を勉強してくださいとするのは、どうか。仕事をするにあたって SDGs の意識というのは必ず必要になる。知識の習得という視点で、SDGs を前面に出すというよりは最低限の一般常識として伝えていく方が、多くの人に伝わるのかなと思った。 あと気になったのが、「親子講座のティピーテントで秘密基地を作ろう」だが、取材が入っているということで記事をいただいたが、読む限りでは、やはり同じように、テント作りがメインで記事になっていて、こちらで伝えたかった SDGs の基礎に関する動画の視聴については全く触れられていない。取材した記者の主観もあると思うが、こちらからも、あの主眼は、SDGs を学んでいただくことだということをしっかり伝えて、こういう新聞記事は、多くの人目に留まるものなので、特に何のためにやっているのかをはっきり PRしないと、何のための事業なのか伝わらないと思う。今後取材があった場合には是非こういう VIVA の姿勢をはっきりさせて、記事に載せてもらえるようお願いしていただけるとよいと思う。余談だが取材は、1 部の方にも来たか。
事務局	・ 1 部は来られなかった。
岡田委員	・ 事業の目的をしっかり伝えた方がよいと思うので、今後よろしく願います。

座長	・私は、この「ティピーテントの秘密基地」のアンケート結果について、最後のページの 6 番で「あなたは男女共同参画社会の言葉を知っていますか」といの設問に、「はい」と回答した者は 1 人で、「いいえ」が 7 人という結果に驚いている。まだ男女共同参画が浸透してないのかなと感じた。これからますます男女共同参画が広がって行かなくてはならない。子どもたち、そしてその親にも深く知っていただくためには、それなりの働きかけをしなくてはいけないと感じた。その他にはいかが。ものづくり大学の永島委員はどうか。
永島委員	・岡田委員がおっしゃっていたと思うが、この資料を郵送していただいて、実は他の職員にも見てもらったりした。女性活躍推進委員をさせていただいており、趣旨も自分なりには把握しているつもりですが、他の職員にこの資料を見てもらったら、うちでやっているもの作り教室と何か違いがあるのですかと言われてしまった。そもそもの主眼というのが先ほど委員の方からもあったが、内容はそこにあるわけではなくて、人に来ていただくための、呼び水の形で付随したものというイメージだが、それが、参加者にはメインになってしまっているようだ。アンケートの結果を見ると、またそば打ちに参加したいとか、フラワーアレンジメント参加したいとか、参加していただいた方に本当の意味での趣旨を理解していただけるような内容に持っていけないと、いつまで経ってももの作り教室になってしまうのかなというのが残念なところではあると思っている。
座長	・事務局もいろいろ工夫はされているが、人を集めるのはすごく大変だ。キャッチフレーズの何かフラワーアレンジメントとかでも、そちらがメインになってしまう。SDGs も、テレビでもやっているが、やはりそれを浸透させるためには、それをしっかりと繋げていくのが大切だなと思う。埼大の幅崎委員はいかがか。

幅崎委員	・ ご報告いただきまして、いろいろな取り組みをしているなと思いつつ考えていた。今のお話に関して私もまったくその通りだなと思っている。やはり、すごく難しいミッションをやっていると思う。男女共同参画に全く関心がない人たちをどうやって巻き込むかっていうところで、こうした仕組みを作っていただいているのは、大変素晴らしいと思っている。だからエンジョイニングポイントとしては非常にいいことだと思う。ただ、皆様が言うように、そこをどういうふうに次に繋げていくかというそこがまた腕の見せどころという感じだ。あともう1つ気がついたが、すごく素晴らしいなと思ったのが、今年初めてオンラインでSDGs セミナーをされた。なかなかハードルが高くて、オンラインに踏み込んでいなかったと思うが、今回やってみて実際に人数が少なく8名だったというところではあったが、年齢層を見ると、20才代が3名来ている。やっぱりそういう意味では、20代のデジタル世代を取り込めること、新しい層の開拓という意味では、続けていっていただきたいと思う。上の世代、40代の方も3名いらっしゃるが、上のほうの世代が他の対面式の講座に比べると、やはり少ないのかというところで、こちらのオンラインを積極的に活用していただければと思う。
座長	・ 本当に今はちょっとしたものはすべて遠隔で参画しているような状態なので、これからもますます必要になると思う。また来年度も積極的に取り入れて、年代が若い方から年配の方まで参加できるように、募集をかけていただきたいと思う。 事務局はどうか。
事務局	・ SDGs の講座については昨年度企画した。その講座は対面式だったので、コロナの関係で急遽中止になった。その際、オンラインでできないかとの、意見をいただき今年初めて試みた。やってみた結果としては、リモートワークで仕事をおこなっているニュースもあり、すでに皆さんがオンラインに慣れているという思い込

	みがあった。しかし、Zoom のハードルが、意外に高く、反省しているところだ。
幅崎委員	・確かに慣れるとなんてことはないが、慣れるまでが大変で、時間がかかるところがある。引き続き、啓発活動をしていただければと思う。それから、提案としては、やっぱり大学でも最近ハイブリッドという形で、対面で来られる方、そしてやっぱり対面で来られないのでオンライン上で参加される方の 2 種類から参加を選べるので、ご検討いただければと思う。
座長	・今の事務局からの説明で、行田の公共職業安定所の横山さんはどうか。
横山委員	・オンラインについて、ハローワークはとても遅れている分野で、県内に 15 ヶ所ハローワークがあるが、ハローワーク行田の方にはまだオンラインの設備がない。大きいところには Wi-Fi も設置され、Zoom もできるパソコンが配られているが、行田にはまだない。ただ、コロナの関係でイベントを開催しても人を集めるのには限界がある状況で、オンラインでのイベントを行う必要を感じている。こちらで講座開催にあたり企画の段階から大変だと思うが、パソコンの使い方、スマホの使い方、Zoom の使い方など、オンラインに必要な基本的な講座があればよいと思う。
座長	・それでは議事の（２）の方に入りたい。令和４年度女性活躍推進事業の計画案を事務局からご説明いただく。また後ほどいろいろな意見を皆さんから伺いたい。 （２）協議事項 令和４年度女性活躍推進事業計画案について説明
座長	・皆さんから積極的な意見をいただきたい。
岡田委員	・まず親子料理講座だが、人気なので増設されたのはすごくよいと

	思う。ただ先ほどから同じことを申すが、料理がメインではないので、しっかりと趣旨を伝えていただけるようお願いしたい。あまり男性が対象とか女性対象とか決めてしまうのはあまり好きではないが、男女共同参画の意識を持ってもらうには、おそらく女性が聞いて家に持ち帰るより、男性に直接理解してもらった方が、効果が高いのではと思う。人気の講座であれば、男性に対象を絞るのはどうか。男性講座の内容は未定ということなので、一緒にしてもよいと思う。ヨガ講座と誤嚥性肺炎予防講座、これが VIVA の事業なのかと気になった。だから、ここにもしっかりと VIVA の伝えたいことを盛り込んで、きちんと VIVA ならではの講座にしていけるようお願いしたいと思う。ヨガ講座は、内面的な部分を重視するスポーツと思うので、仕事に限らず自分らしくやりたいことを実現していく、そういうのを見つめ直すきっかけに繋がれたら幅広く活躍を支援できると思う。女性が活躍する場は仕事だけではないので、自分のやりたいこと、または地域貢献・社会貢献なんでもいいと思うので、それらとつなぎ合わせて、幅を広げて、VIVA のメッセージを伝えていただけたらと思う。
座長	・いろいろと意見をいただいた。それではウーマノミクス課の大中委員はいかがか。
大中委員	・まず就職支援セミナーと在宅ワーカー育成セミナーについては、当センター女性キャリアセンターと共催という形で開催していただいた。来年度の事業は、まだ決まってないが、分かり次第調整をさせていただく。一点パソコン講座で再就職に役立つ履歴書の書き方については、当センターでも、かなり好評である。実際そのまま履歴書に書いて、応募ができるレベルまで学べるので、県の開催している就職支援セミナーに興味を持たれた方たちが、その就職支援セミナーに応募していただけたらさらにいいと思う。
座長	・その他に市民生活部の黒澤委員はいかがか。

黒澤委員	・私は、市民活動団体を支援する仕事をしている。市民活動をたくさんの方に知ってもらい、参加してもらいたいと思って仕事をしている。しかし難しい部分もあり、日々試行錯誤しているところだ。ただ私の所では、皆さんが何をやりたいかを聞き取る小さいサロンを月 1 回ぐらいのペースで開催しており、その中で Zoom の話も出た。SNS にも興味があるが、やり方がわからない、そもそもインスタグラムって何か分からない。そういう方がたくさんいる状況である。そんな中、今年度、公式LINEアカウントを作るという講座を開催した。登録している団体が、自分の団体の公式LINEアカウントを作成することができた。グループLINEと公式LINEアカウントの違いも分らなかったが、今は自分カウントを作って、自分たちの団体が、イベントをやるときに、参加申し込みができるようになって皆さん、充実感を持ってくれた。やってよかったと思っている。また、行田市のホームページがリニューアルして、市民が投稿できる掲示板ができた。自分たちの会員募集とか、日々の活動の情報をアップできる。色々やってみると、思ったより良くできた喜びの声をいただいたりする。男女共同参画とは別の視点だが市民活動も難しいテーマであり、私達はこのような活動している。今の案とは離れるが、活動の報告をさせていただいた。
座長	・何かご意見あるか。田島委員はどうか。
田島委員	・男女共同参画を伝えていくのは難しいことだと感じている。これからもこのような事業を通して伝えていくのが、一番よいかと思う。コロナ禍になりもう 2 年経ち、オンラインの重要性が増している。先ほど幅崎委員がおっしゃったように、確かにオンラインを推奨していくのは大切なことだが、年配の方とか、まだ使いこなせない方がおり、やはり対面での講座も必要と思っている。基本はオンラインにして、できない方は対面という方法もあると、もっと参加者が増えると思う。

座長	来年度は、特にオンラインという掲載がないが、おやこ料理講座とかヨガなどでも、オンラインでの開催が可能だと思う。
事務局	・まったくそのとおりだ。対面では人数が限られている。オンラインで多くの方にいいものを配信できればと思う。事務局によろしくお願いする。
座長	・誤嚥性肺炎については、若い人はあまり、心配はないと思うが、年をとると意外と誤嚥性肺炎で重い症状になってしまう方が多いと伺っている。親が、誤嚥性肺炎で重い症状になったときに看病が発生し、仕事に支障がでる。若い方にも、家族の健康を守っていただきたく企画した。オンラインのハイブリットにつきましても、誤嚥性肺炎講座で、できるようであればやっていきたいと思う。
事務局	・事務局から説明を受けないと、タイトルだけ見ただけだと分らなかった。説明を聞くとそういうことかと納得できたというのが私の意見だ。やはり、オンラインも兼ね、コロナが収束するのは先が見えないので、そういうことも考えながらやっていただけたら講座は本当に生きるかと思う。 令和4年度の案が出たが、議事3その他についてでよろしいか。
座長	・（3）のその他でございます。その他では登録団体について申し上げます。VIVAでは登録団体がいくつもあり、ここにオハナというアロマとマッサージに関連したグループと、にこまるヨガというヨガをやっている団体の2団体の登録があったことをお知らせする。
座長	・それでこの2つの登録団体はここを使ってこれから事業やるということか。

事務局	・はい。「オハナ」という団体は、マッサージとかアロマを自分達でやっていて、「にこまるヨガ」という団体はヨガを2時間ぐらいやっている。VIVAに登録していただくと、利用料金が割引となる。またVIVAで講座をやるときに、講師を依頼させていただくこともある。
座長	・登録は、ここで使った実績とかがなくても大丈夫か。
事務局	・はい。でも、この二つの団体は2週間に1回または週に1回ぐらいは、利用しております。
座長	・全般的なことで結構だが、環境経済部農政課の春田さん何かあるか。
春田委員	・来年度の誤嚥性肺炎予防講座だが、私の父が誤嚥性肺炎で入院したことがある。予備知識を得ることは重要だと思う。
座長	・私の両親も最後は誤嚥性肺炎だった。皆様もこういう基礎知識を勉強する機会になると思うので、オンラインと対面と両方で実現できたらと思う。事務局よろしくお願いします。それでは、ファイブイズホームの松原委員はいかがか。
松原委員	・今回リモートでの開催をしていただいたということで事務局の皆さん非常に大変だったと思う。企業の採用活動の中でもやはり、新卒の面接のとき1次は面接、2次はリモートで行うことも多くなってきた。中途採用の方は若い方ばかりではないので、リモートが苦手な方に関しては社内で対面での面接を第1次面接として行い、2次面接での役員との面接では会社にお越しいただいて、リモート環境を整えるなど、相手の方に合わせた形で実施をしている。やはり幅崎委員がおっしゃったようにハイブリッド型ということで、苦手な方も得意な方も両方参加できるような講座がで

	できればよいと思う。コロナ禍で講座を実施するにあたり、定員を減らしていると思うが、人を集めるというのも大変な中で、感染予防をしながらやっていただきたい。今回開催していただいたリモートでのセミナーだが、こちらは聞くだけではなくて参加者も発言できる形だったらしいが、そういったのも非常に良かったと思う。やはり聞くだけではなくて、参加者も発言できる方が印象にも残りやすいし、参加した方も充実感があるかと思うので、今後もそのようにやっていただけると、参加者も増えていくと感じた。
座長	・そのほかはないか。
岡田委員	・次のネットワーク会議が今年の7月になるので、おそらく前半のものは準備してある時期の開催になると思うが、委員の皆様は、いろいろ知識もお持ちでいらっしゃるので、例えば先ほどご指摘させていただいたヨガ講座とか、誤嚥性肺炎予防法講座が非常に重要であるということは認識できたので、じゃあそれを発展させて、VIVAの事業としてどういう内容を盛り込んでいくかを委員の皆さんにこの場でご意見いただいたほうがよいのではないかと思います。
座長	・男女共同参画の視点に立ってということで、これもやはり1部2部とかそういう形でやるのか。それとも何か案があるか。
事務局	・親子講座などは、1階の調理室でやるので、2階の学習室を使い、まずSDGsの動画とかを見て1階へ戻って講座を行うことが可能であるので完全な対面形式のものについて1部2部で行っていく予定だ。ただ、先ほどから出ているハイブリッド式については、は今後の課題とさせていただく。
座長	・岡田委員いかがか。そのご意見で事務局にまかせてよいか。

岡田委員	・皆さんもお忙しいと思うが、やっぱり市民の税金を投入した事業ですので、最大限 VIVA として発信することは明確にして、なるべく多くの方に参加してもらうこと、充実させることは私達の会議としての責任だと思っている。案などを皆さんにメールや電話でいただくようにし、期日を設けて、無理のない範囲で案をいただくように事務局からお願いするというのはいかがか。素晴らしいスキルをお持ちの方が集まっておられるので、意見を出し合ってそれを反映した事業にしていくと、この事業が毎年毎年よくなり、さらに進化できると思う。
事務局	・先ほどの案ですが、この会議自体の回数が減っているので、そこを補填する意味合いで、メール等で何か意見を取り入れられるような機会を設けていきたいと思うので、よろしく願いしたい。
座長	・そのようなことで、事務局と頻繁に情報交換ができるような場を設けていただければ、皆さんのいろいろな意見が市に上げられていただけたらいいと思う。幅崎委員どうぞ。
幅崎委員	・意見を挙げていただける機会を設けていただけるのはすごくありがたい。ご提案だが、先ほど VIVA が行う事業なのでやっぱり男女共同参画という意味合いを伝えていく。1つのご提案としては、例えばヨガ講座とか誤嚥性肺炎予防講座に関心があって手を挙げて来られる方というのは例えばヨガだと、体とか健康とかに関心があるわけだ。もちろんいきなり男女共同参画のビデオを見せるというのも1つの手だが、つなぎというか、男女共同参画の中でも例えば身体とか健康ということで少し話をしたうえで、じゃあヨガやってみましょうという流れみたいなものがあると、集まってくくださる方々の関心にも近い、入口の柔らかい男女共同参画のある1部を浸透させることが出来るのではないかと思う。その辺のところをご検討いただきたい。 あともう1つ、男性講座と書いてあるが名称はさておき、性別

	役割意識という部分で、これぞまさに VIVA がやらなければならないものだと感じた。こういうのをやらなければならないというのが、あてあまるものがないと思っていたが、今回出てきたぞという感じがして、是非これを練りに練っていただいて、いろんな切り口で実践してほしい。行田ではジェンダー関係の講義は全然人が集まらないのかと思っていたが、伝え方次第だと思うので、是非これが今年の VIVA の業績として目玉になるように、「男女共同参画アンドジェンダー講座」とか、企画を練って、我々も少なからずご協力させていただくので、よろしくお願いします。
座長	・ 貴重なご意見をいただいた。是非それが活かされた講座になればいいと思う。まだたくさん時間があるので、皆さんの貴重な意見を寄せていただく。 そのほか特にないか。それでは本日の議事はすべて終了となる。長時間にわたり誠にありがたい。これを持ちまして議長の職を解かせていただく。
事務局	本日はありがとうございました。 ● 1 1 時 3 5 分 閉会